

令和7年度

一般選抜B日程

国語

出題意図

I	<p>林京子の小説「雨名月」(『三界の家』所収、新潮文庫)の一場面を素材とした。</p> <p>本問は、漢字知識、内容理解、文脈理解、登場人物の心情を適切に読み取る能力を問うことを意図して出題した。</p> <p>問一、問二は漢字知識、語彙の知識を問う問題である。また、問三、問四、問九は、登場人物の心情を正確に読み取る力を問う問題である。問五、問六は、抽象的な表現の裏にある意味を読み取る能力を問うものである。そして、本文の文脈に沿った文学的表現を選択する能力を問う問題として、問七、問八を出題した。</p>
II	<p>小林秀雄・岡潔の対談『人間の建設』(新潮文庫)の一部から出題した。</p> <p>本問は、漢字や語句の知識、ハイコンテクストであるダイアローグの文脈およびそれぞれの主張を的確に読み取る能力を問うことを意図している。</p> <p>問一、問二は、語彙知識と漢字知識を問う問題であり、問三～問五、問七、問一〇は、文脈を正しく理解し、比喩表現の裏に隠された意味を類推する力を問うものである。</p> <p>また、問六、問八、問九は、本文に合致する適切な表現を選択できる能力を問う目的で出題した。</p>
III	<p>大野晋『日本語練習帳』(岩波新書)を素材とした。</p> <p>本問は漢字や言葉の理解力、文学史の正しい知識、文章の解釈、読み取ったことを適切に構成する能力を問うことを意図して出題した。特に、問三、問五では言葉の意味を、問七では「う抜き言葉」に該当しないものを選ぶ問題を出し、正確な意味が理解されているかを判定した。また、本文で著者が文学者たちがどのように言葉と向き合っていたのかを示していたことに関連づけ、問二や問六は高校までに学ぶ日本文学史の知識を問うこととした。さらに、文章全体からの的確に文脈を読み取る能力を判定するため、問一一を出題した。</p>